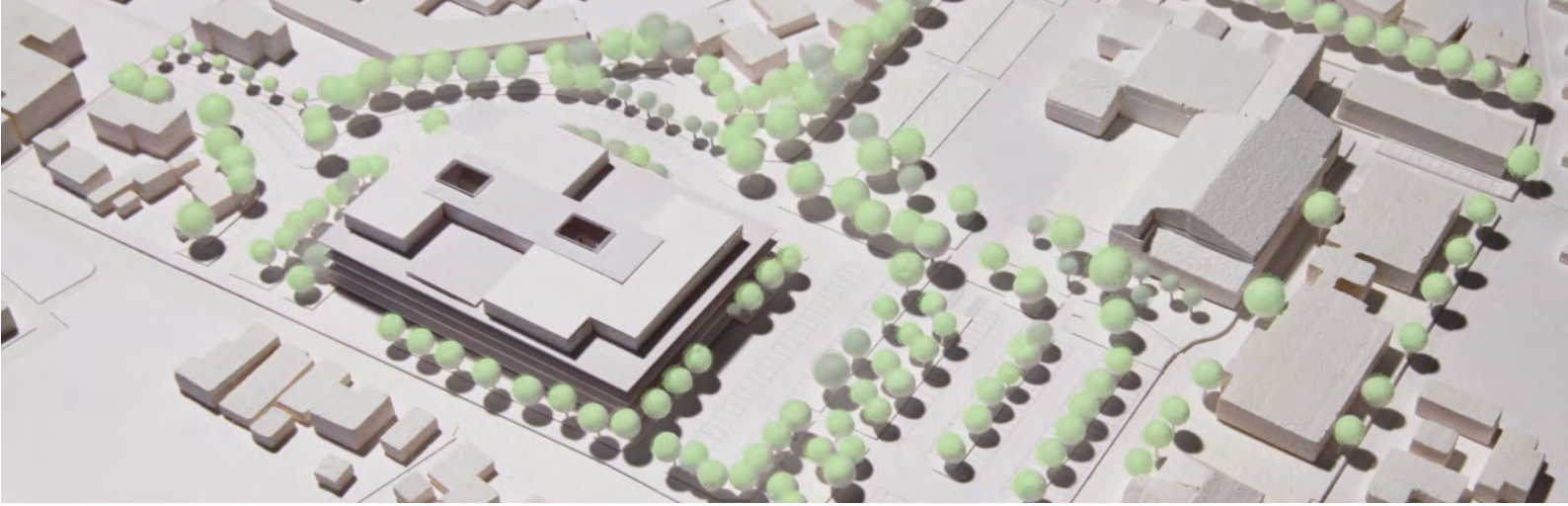


別冊  
本庁舎建設  
基本設計素々案



鳥かんイメージ。既存の周辺環境の雰囲気と一体性を持った外構とします。

市民の皆さまへ 基本設計経過報告

# 質実剛健で、 市民に喜ばれ、次世代へ引き継がれる市庁舎

市は、昨年末に策定した「本庁舎等建設基本計画」により、本年度、関連用地の取得と庁舎位置条例の議会議決を経て、基本設計を進めています。このたび基本設計の素々案の内容をお知らせします。

広報あづみの8月号2ページでお知らせしたとおり、プロポーザル(\*)の審査会に提出された「技術提案書」は、設計業者を選ぶための資料です。具体的な基本設計は市と設計業者との共同作業により進めています。

技術提案書では、経済性・駐車場の利便性・日影の影響・近隣施設への圧迫感・北風の影響について提案がされました。この創造性、技術力を生かし、基本方針・配置・形状・階層について方針をまとめました。

今後、ワークショップや説明会で市民の皆さまのご意見をいただきながら、基本設計を来年1月末までにまとめ、その後、実施設計に入る予定です。

\* プロポーザル方式については、国土交通省大臣官房官庁営繕部発行のパンフレットもご覧ください。

下記 URL または、総務部庁舎建設推進課でご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/gobuild/sesaku/proposal/2006-4.pdf>



南側より本庁舎を見る。右手奥が豊科近代美術館と豊科交流学習センター「きぼう」。

## ■ 質実剛健な庁舎

- シンプルな形状にし、コストに配慮しつつ長寿命の建物とします。
- 地上 4 階地下 1 階とし、安曇野の景観に配慮した高さとし、
- 既製サッシを使用して、コストを軽減し、メンテナンスを容易にします。

## ■ 災害に強い庁舎

- 防災拠点として、災害に強い庁舎をめざし、免震構造化や災害対策本部室(仮称)を設置するなど災害対応機能を備えます。
- 機械・電気室を最上階に配置し、万一の浸水時などの機能停止を防ぎます。
- ライフラインが途絶した場合でも自家発電や貯水槽の設置などで、72 時間は災害対応が持続できるよう、エネルギー源を確保します。



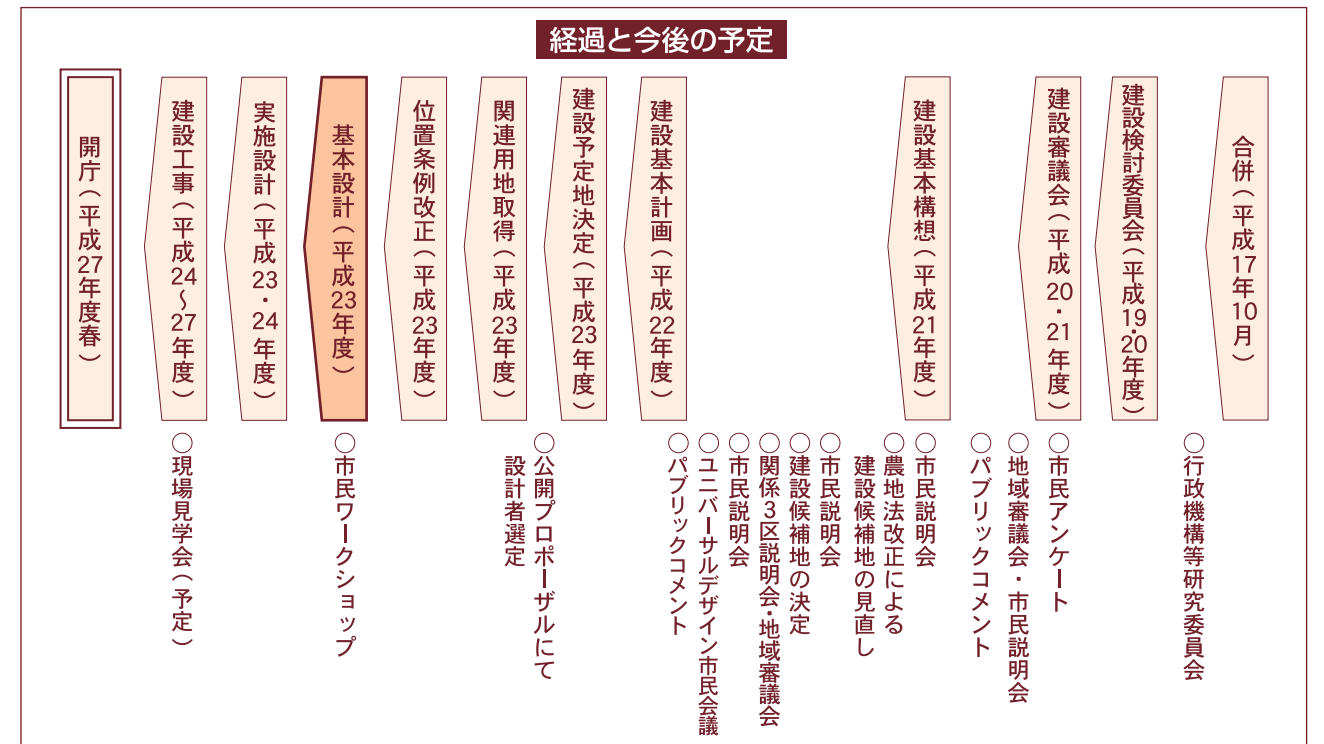
災害対策本部室の事例：災害時に指揮の拠点となる部屋。通信連絡設備等を備えています。

## ■ 市民が使いやすい庁舎(市民意見の反映)

- 市民サービスに関係する部門を 1 階に配置(ワンストップサービスの導入)し、市民が迷わずにスピーディーな手続きができる機能を提供します。
- 総合案内などを導入します。
- ユニバーサルデザインによる庁舎とします。
- 市民が迷わないよう階段やトイレなどを左右対称に配置します。
- 窓口カウンターはプライバシーに配慮します。
- 市民向けスペースを設置します。

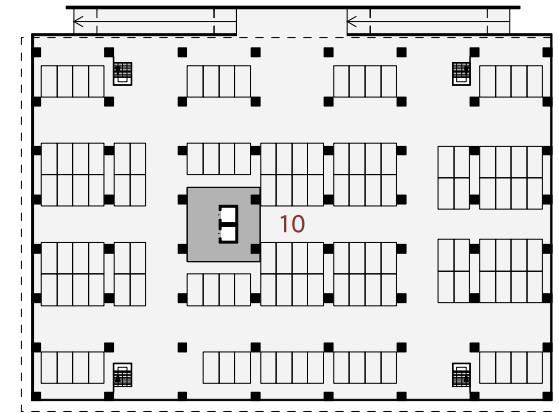


ワンストップサービスの事例：1 階に総合案内、市民サービス窓口を配置しています。





地階：駐車場ゾーン

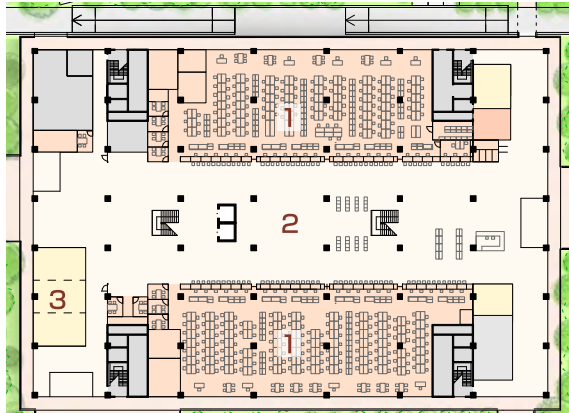


10. 駐車場

免震ピットを有効活用して、駐車場として利用します。

※今後の検討や組織の見直しにより内部の間取りは変更になる可能性があります。

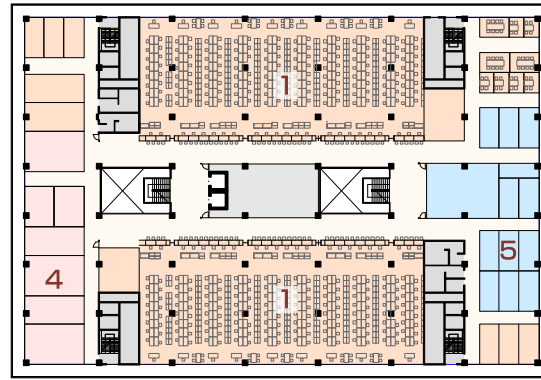
1階：市民サービス・憩いのゾーン



1. 執務室 2. 市民ホール 3. 多目的スペース

市民の多くが日常的に利用する窓口を1階に集約することで、市民の利便性を図ります。期日前投票や申告時の税務相談会場となり、通常時は市民ギャラリーとして活用できる多目的スペースなど、市民の憩いの空間を確保します。

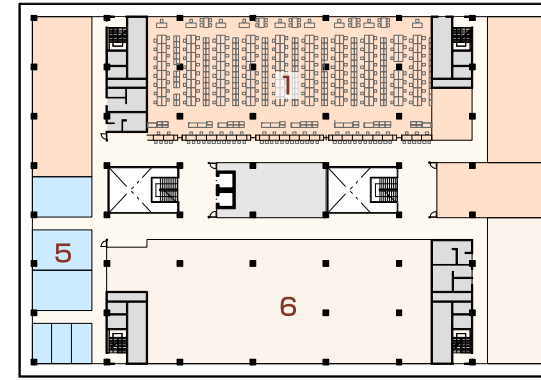
2階：市長室、産業、企画ゾーン



1. 執務室 4. 市長室等 5. 会議室

市の中枢部として市長室を中心に、企画政策や財政部門と都市建設・農林・商工観光・上下水道といった産業系の部門を配置し、横断的な連携が図られ効率的な業務運営が行える配置とします。

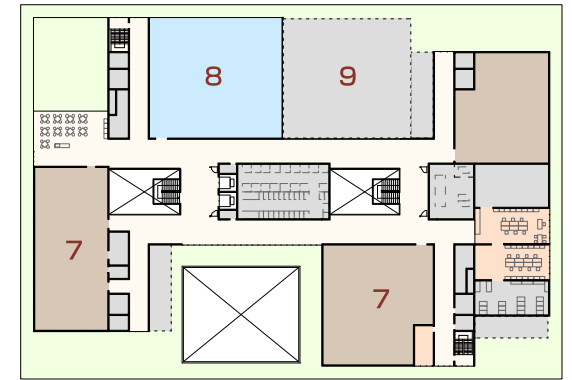
3階：議会、教育委員会、総務ゾーン



1. 執務室 5. 会議室 6. 議会関係

執行機関への監視機能を備えた独立性を堅持しながら市民に開かれた身近な議会と、教育行政部門である教育委員会や総務部門を配置します。

4階：大会議室、書庫、機械室ゾーン



7. 書庫 8. 大会議室 9. 機械スペース

大会議室を北側に配置し、眺望の良い会議室として市民の皆さまの利用を考慮します。機械室や書庫等の居室でない部分は内・外装をシンプルにして建設コストを軽減します。

■配置計画

- 既存の豊科近代美術館、豊科交流学習センターとの雰囲気や駐車場との共存を図り、「武蔵野の小径」と連続した小径を設けて、バラ園との一体性を持った外構とし、散策などで訪れている多くの方々にも共感いただける配置とします。
- 隣接する施設や民家に圧迫感や日影、電波障害の影響をできるだけ与えないよう配慮します。
- 景観行政団体として推進する立場にある事を考慮します。
- 既存の駐車場を含め、駐車台数を多く確保し、有事の際はスケールメリットを生かした活用ができるようにします。

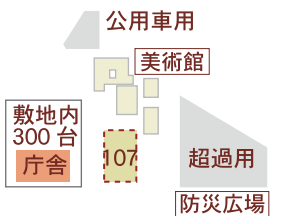


■半地下式駐車場の設置（免震ピットの有効活用）

免震構造にした場合、免震装置の管理のために基礎部分にピット（掘り下げた空間）が必要になります。現地の地形が道路から北に下がっていることから、これをあと1m50cm程度深くする事により、大きな費用を掛けなくても駐車場として活用できます。（柱頭免震方式）  
 駐車台数が増えれば、来庁者はもとより豊科近代美術館、豊科交流学習センター来館者が使用でき、また雨・雪の日は駐車場から濡れずに市役所に入ることができます。  
 万一の災害発生時には屋根付きの大きな空間として、救援物資等の資材配布場所等に活用でき、大きな効果が生まれます。



柱頭免震の事例

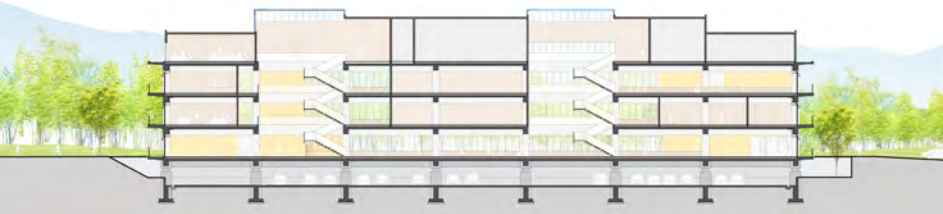


多目的スペースのイメージ

■ランニングコストの軽減（自然エネルギーの活用）

- 自然換気、ナイトパーズ(\*)を導入します。
- 太陽高度の高い夏の日射を庇でさえぎり、室温の上昇をおさえます。
- 昼光利用、雨水利用、太陽光発電、地中熱利用を検討します。

\*夏の夜間に冷えた外気を取り入れ、室内にたまった熱を排出する省エネ手法



配置図 S=1/1200